

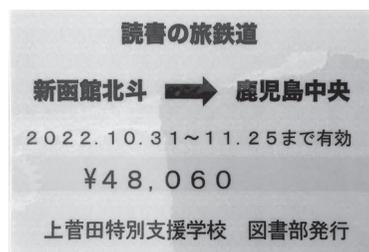
## ■ 肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

# マルチメディアDAISY図書が身近な読書活動の一つとして活用されることを目指して

神奈川県横浜市立上菅田特別支援学校  
教諭 岩崎 有美

### 学校図書館の取り組み

本校は横浜市の西部にあり、小学部44名、中学部42名、高等部64名が在籍する肢体不自由の特別支援学校です。本校の学校図書館では、児童・生徒が読書活動により意欲的に取り組めるように、1年間を通していろいろな取り組みを、学校司書や図書ボランティアの協力のもと行っています。夏休み前には、できるだけ多くの子どもたちに本を借りてもらえるように「サマーおみくじ」を配布したり、横浜市の「はまっ子読書の日」にあわせ、本校では「読書の旅」というものを行ったりしています。今年度は「新幹線の旅」を行いました。全員が北海道から鹿児島中央駅までの切符を手にして、小学部、中学部、高等部、教職員が1か月でどれだけ読書を進めるかを競い合います。



学校司書が作成した切符



図書ボランティアが作成した参加賞のしおり①



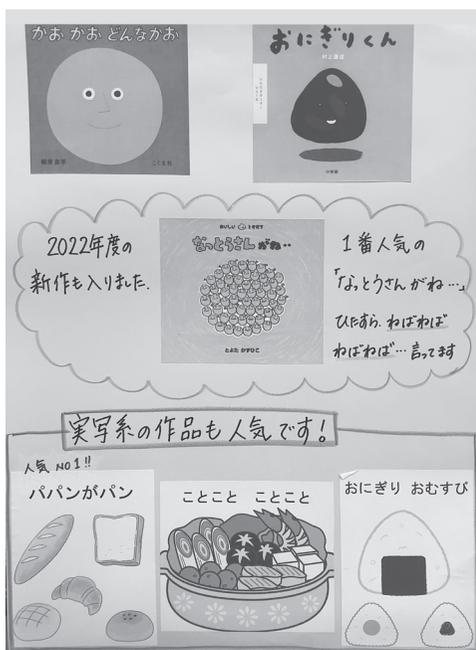
図書ボランティアが作成した参加賞のしおり②

この期間に、リクエスト給食も行います。これは、給食室と協力して、学校図書館にある本の中で食べてみたいメニューをリクエストし、それをもとに給食で提供可能な献立を立ててもらいます。

昨年度は、『はらぺこあおむし』に出てくる食べ物が、給食週間に出されました。一昨年は、『ぐりとぐら』のカステラでした。親しみのある本の中の

食べ物が給食に出ると、子どもたちにも自然と笑顔が見られます。

毎年、図書室の掲示板を活用して、マルチメディアDAISY図書の紹介を行っています。今年度は、図書室でもよく読まれている人気のマルチメディアDAISY図書を紹介しました。リクエストメニューと関連づけ、食べ物がメインの内容を掲示しました。



人気のあるマルチメディアDAISY図書

実際に図書室にある本と、マルチメディアDAISY図書を紹介しました。『なっとうさんがね...』は「ねばねばねばねば...」という文章が小学部から高等部の子どもたちにも人気があり、マルチメディアDAISY図書をきっかけに図書の配架にいたりしました。また、『おにぎり おむすび』では、おにぎり

の具材対決ということで、好きな具材の投票を行いました。



おにぎり対決

「さけ」「おかか」「ツナ Mayo コーン」の3種類を候補に挙げました。子どもたちは掲示板の前を通るたびに立ち止まり、シールを貼ったり、経過を楽しみに見たりしていました。また、子どもたちだけではなく、教職員も興味を示す様子が見られました。

今年度は、「さけ」が優勝で、給食のメニューに出される予定です。昨年度は、『うどん対ラーメン』対決で、「うどん」が給食のメニューに選ばれました。今年度は2回目ということもあり、読書を通して楽しんで取り組む姿がたくさん見られました。

タブレット端末の普及にともない、

本校では児童・生徒用端末には「イーリーダー」(アプリ)を入れています。なかなか一人で読書を進めることがむずかしい子どもたちは、図書室へ行き、学校司書に相談して自分のタブレット端末に読みたい図書をダウンロードしてもらい、読書を楽しむ子どもたちの姿が少しずつではありますが、増えてきています。

## マルチメディアDAISY図書の活用事例1

### (1) 対象

中学部2年

### (2) 授業

国語・自立活動

### (3) 生徒の様子

#### <活用前>

図書の内容というよりもページをめくる活動への興味が高く、自分の興味・関心のある図書のみを選んでいました。

#### <活用後>

「わいわい文庫」の中から、その都度生徒が興味を示す図書を選んで利用するようにしています。特に写真が多くスライドさせて読み進められるものを好んで選んでいます。マルチメディアDAISY図書は、読んでいる文字の色が反転し、どこを読み進めているかがわかりやすいため、以前は文字に視線を向けることがほとんどなかったのが、

文字を追いながら読書を進めるようになってきました。また、群像劇のような朗読も楽しめるようになり、読書の幅が広がってきました。より物語を意識して読書活動に取り組む姿が見られます。

### (4) 成果

生徒にとって一人で読書活動に取り組むことで、マルチメディアDAISY図書への関心が高まりました。読書活動を通して、以前は特定の図書にしか興味を示さなかったり、物語よりもページをめくる動作への関心が強かったりした生徒が、他の図書へも興味が広がり、文字や物語への意識が高まっています。



マルチメディアDAISY図書を楽しむ生徒

## マルチメディアDAISY図書の活用事例2

### (1) 対象

高等部3年

### (2) 授業

自立活動

### (3) 生徒の様子

#### <活用前>

見ることよりも聞くことのほうが得意とする生徒で、自分から手足を動かして活動することはむずかしい生徒です。聞くことが得意な生徒なので、音楽や絵本の読み聞かせは楽しんで聞いています。読み聞かせをする際は、絵本を開きながら教員が読み聞かせをするのみの活動でした。そのため、オノマトペなどは、生徒の目線で復唱するという活動がむずかしく、生徒にとっては受け身の状態でした。

#### <活用後>

マルチメディアDAISY図書を活用するようになり、教員も生徒に寄り添い、一緒に読み進めることができるようになりました。読み上げに合わせて教員が復唱したり、一緒に手などを動かしたりできるようになり、生徒の笑顔をより引き出せるようになりました。体のストレッチやマッサージを行う際も、生徒と一緒にどの図書を読むか選び、ストレッチを行いながら聞くと、生徒は一人で聞いていても笑顔になったり、発声したりして読書を楽しみながら筋

緊張を緩め、リラックスして活動できています。

### (4) 効果

教員による読み聞かせは、生徒とのやりとりや実態に合わせて、読む速度に変化をつけたり声に強弱をつけたりすることができます。しかし、マンツーマンでは、生徒にとっては受け身の活動になりやすい場合があります。マルチメディアDAISY図書を活用することで物語に合わせて身体を動かしたり、言葉を復唱したりすることで物語を相手と共有する意識が芽生えたのではと感じられました。ストレッチなどの活動に取り組みながらも、教員も生徒と一緒に読書活動をすることで生徒の安心感も得られ、そこから発声を促すこともできてきました。

## まとめと課題

昨年までは教員向けにアンケートを実施したり、活用について説明をしたりしてきましたが、なかなか活用に広がりがもてませんでした。そこで学校司書と協力しながら、「わいわい文庫」の案内に読書時間を提示したり、学校図書館の年間の取り組みの中でマルチメディアDAISY図書を活用したりするようにしてみました。そうすると、図書室に子どもたちが来て、ダウンロードしてほしいという要望が少しずつ増えてきました。

子どもたちだけでなく、教職員も授業で活用したいという声も聞かれるようになってきました。「イーリーダー」(アプリ)は教職員用のタブレット端末にはないため、まだまだ環境が整っているとは言えませんが、授業で活用できる端末の紹介や学校図書館からの貸出などの周知を行っていきたいと考えています。

「わいわい文庫」には、方言が使用されている紙芝居や民話、図鑑などもあるため、国語だけではなく社会や理

科、家庭科など教科を横断的に活用できることを発信していけたらと考えています。

本校の子どもたちにとって読書活動は楽しみのひとつです。しかし、一人で本を手にしてページをめくることが困難な子どもたちが多いため、マルチメディアDAISY図書はとても有効です。子どもたちが学校の中だけでなく、校外の読書コンクールにも出展できるように、課題図書など、「わいわい文庫」の蔵書が増えていくことを願います。

